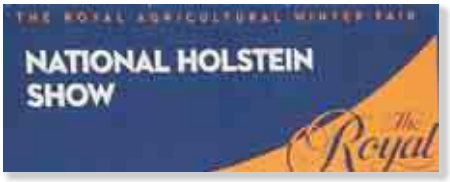
第42回 組合員海外酪農視察研修

カナダ・ホルスタイン酪農視察研修



昨年11月に行われた『第42回組合員海外酪農視察研修』(2013年11月５日～11日の５泊７日、デーリィマン社との共催）に同行させて頂きましたので、その概要を報告いたします。

11月５日

北海道からの参加者14名は、13時に千歳空港に集合し柾谷参事、西本専務（デーリイマン)、新澤常務（道授精師協会）よりそれぞれ挨拶をいただき、寒河江 正耕氏（標茶町）に団長を依頼して、成田空港へと向かいました。成田空港で日ホ本局國行証書課長と合流し、ツアー参加者15名と添乗員１名の16名が揃ったものの自己紹介する間もなくトロント行きに搭乗となりました。約12時間のフライト後、カナダの入国審査を終えるとそこには現地ガイドのテリー鈴木氏が「カナダ酪農視察」と書かれたカードを持って私達を出迎えてくれており、バスに乗るために外に出ると鉛色の空で薄暗く感じられました。

バスでテリー氏の流暢な説明を受けながら（中には子守唄に聞こえた人がいたのは、言うまでもないと思いますが）約２時間ゆられ、ナイアガラに入る頃には真っ暗となりました。「ライトアップされたナイアガラの滝」と説明を受けたのですが、霧のせいなのか、雨が降っているのか光が雲に吸い込まれているような景色を車窓から眺めながら、ホテルへと向かいました。ホテルの前のレストランで夕食をとりながら、自己紹介を行いましたが、機内で出された三度の食事のためなのか、時差なのか、あるいは周りが外人（私たちが外人なのですが）で気後れしたのか早々にレストランを後にし、ホテルへ戻る人、ライトアップされた滝を見に行く人に分かれて最初の夜を過ごしました。

11月６日

夜中に何度も目を覚まし寝返りを打っていたのに、けたたましいモーニングコールで起こされ、カーテンを開けると目の前には、川の流れとそれが滝となって落ちていくが、その落差による水しぶきが雲のようになって湧き上がり、滝を隠している景色が見えた。これがナイアガラの瀑布だ。

見とれる間もなく身支度し、朝食を済ませテリーさんと合流しナイアガラの滝を見学。上流の水門が閉じられているのにこの水量、水門が解放されたらどんなことになるのかと思いながら見とれていました。

次は牧場研修です。

〔サミット ホルム ホルスタイン〕

搾乳頭数380頭 出荷乳量4,700t（12,500㌔/１頭）乳代75c/１L、クオーター制度により、超過分の乳代は25c/１L。初産の分娩月齢は22ヵ月で乳量１万㌔を目標として管理している。

分娩間隔は12.8ヶ月（約385日程度か？）発情管理は歩数計によるコンピュータ管理、平均授精回数は2.6回　分娩後55日くらいから授精し、70日経過しても発情の来ない牛は治療する。供用種雄牛はカナダ75%、アメリカ25%くらいの比率でヤングサイアーも全体の25%程度使用しているが、すぐに新しい（GLPI・GTPI）雄が出てくるため、入手できる高いインデックスを数種類使うが、子牛のゲノムテストはしていない。搾乳は12頭ダブルのパーラーで３回行い、１時間当たり100頭のペースでフルタイム２人パートが９人の11人が他の作業と合わせて従事する。フリーストールは増築して395頭分のベッド。ベッドには砂が

敷かれており、この砂で牛の調子が良く５群（泌乳３群、ドライ２群）で管理している。現在保育舎を建築中で次に育成舎を考慮しており育成舎が

育成舎

育成舎内部

両側が観音開きで、中央部分を上下に反転させて、仕切る

完成したら、就農当初の牛舎は取り壊すと話しており、すでにスチールサイロ１基は取り壊したと話していた。

〔**フラドン ホルスタイン**〕

兄弟とそれぞれの息子の４人で２か所の牧場にて経営。交配種雄牛はタイプを重視し能力は次。今はアツプル、ウインドブルツク、アフターショツクなどでヤングサイアーもファミリーが安定し体型の数値の高いものを使っているが、最終的には分娩し乳房を見てからその後再度使うか判断する。主なファミリーは　①ジヨデイ　②チーファデイーンに、購入した数頭の牛のファミリーとなっている。平均能力は10,000㌔　F4.2%　P3.4%　これらのファミリーの受精卵の販売も行っており、収入の比率は乳代75%、個体・受精卵の販売が25%

SSジヨーデイー
父 セプテンバー
母 ルドルフ ジヨデイ

ヤングサイアーによる娘
父 シンパチコ（GTPI2240）
母 シヨトル ジヨデイ

〔**ボスデール ホルスタイン**〕

（ホルスタインと豚の飼養農家）

飼養頭数250～300頭　搾乳頭数150頭　平均能力10,500㌔　4.2　3.2　牛舎は対頭式が２列で計４列、搾乳は１日２回　16台のユニットを２人で行い約２時間程度、通路には大きな扇風機が１列に５台で音は静かと話していた。牛群はEX52頭　VG125頭　G20～30頭　供用種雄牛はシド、フィーバー、ウインドブルツク　などでヤングサイアーは使っていない。

IDEE　LUSTTERの孫
ゴールドウインの受精卵ありますと名号板に書かれていた

GLPI3035　2011．9．3生まれ
父 ウインドブルツク

〔**クォリティ ホルスタインズ**〕

オーナーのポール エクステイン氏が待ち構えており、テリー氏と話したと思ったらすぐにいなくなりました。テリー氏によると、ローヤルの会場へ（７頭出品）向かうところで、別に我々を待っていた訳ではありませんでした。

写真は1998．７月生まれ16歳のカールトン パム（EX-97）　ここ２年間は採卵しても採れずペットになっている、と鳥取県からの実習生が話していた。

この後、ローヤルの会場近くを通りトロント市内のホテルへ向かうこととなりますが道路が混んでおり、普段なら45分程度で着くと話していたが、約２時間かかり、テリー氏は次の日本人ツアーの人たちの出迎えに間に合わないと嘆いていました。

11月７日

いよいよローヤル ウインター フエアです。レッドアンドホワイトは９時から始まるため、ホテルは８時出発の予定が道路事情でバスは20分遅れで出発です。しかしバスは裏道を走り20分ほどで会場に到着しました。テリー氏が前述の別の団体のツアーガイドとして行ったため、本日は在カナダ

歴25年の江田氏に代わりましたが、その江田氏に「ナイスドライブ！」と声を掛けた私たちに、「Have a good-day」と返答しながら二の腕をたたき、自慢していました。

会場に入るためには23ドルが必要なのですが、あらかじめテリー氏が手配をしてくれており、我々はインター ナショナル ビジネス センターから無料で入場できました。しかしながら私の知人は、その入口でチケットを買ってくれと言われて、一緒の道内酪農家の人と入場チケットを購入し「去年までは無料で入れたのに」と嘆いていました。

ビジネスセンターに入ると野澤組とそのツアーで来た日本の人達がいましたが、早々にショウの会場へ向い席を確保し場内を見渡すと、シーメックスの娘牛展示、その奥にセール オブ スターの看板を見つけ駆けつけました。

娘牛展示

88点ブラウラーの娘

セール牛繋留所

セール牛はまだ揃っていません

名号板はダブルクリップで止めてあり、販売者が横にCMの看板をつけているだけの、シンプルな作りとなっています。牛床は、フロアから18cm位高く設置された木製で外枠は黒塗りの木で更に牛床より１cm程高くなっています。

昼過ぎの飾りつけされた名号板

セールの会場を後にして共進会場（リング オブ エクセレンス）に戻ろうとしたときに毛の長さを確認する場所を見つけました。観覧席から見えないようにカーテンで仕切り、ライトが当てられています。翌日の会場（リコー コロシアム）出品牛入口でもチェックされていましたが、その時は何やら言い争っているように見受けられたものの、入場していきました。

席に戻って、ショウの見学です。この日はレッドの全クラスとナショナルショウの１部２部がリング オブ エクセレンスで行われます。素敵な名前の会場ですが、建物の一部をプラスチックの柵で仕切り、観覧席を設置しただけで、リングの中に柱があります。レッドの審査員はプリンスエドワード島のBloyce Thompson氏とカタログに書かれています。その時は「どこかで見た名前だな？」ぐらいしか考えていませんでした。思い出したのは翌日の夕方、５万㌔以上のクラス、イーストサイド ルイスデール ゴールド ミツシーを見ている時にミツシーの繁殖者と同じ州の同じThompson氏、ひょっとしてミツシーの繁殖者？（場内アナウンスでは説明されていたと思われますが）確認が取れたのは帰国してからでした。

レッドの出品頭数は少なく名簿の番号は92で終了しており、出品頭数が多いのは１部だけであとは１桁の頭数で、１頭だけというクラスが２部有ります。昨年のツアーは、午前中トロント市内観光、午後からショウの見学だったと聞いており、それも良かったかなと考えながら見ていました。しかしながら上位入賞牛を名簿と照らし合わせて見ていると、１頭のファミリーに注目する事となりました。

ルツクアウト エルム ブリツジ リル レツド

まずはサマーイヤリング（6月1日～8月31日生まれ）で1位になったルツクアウト エルム ブリツジ リル レツド、彼女の母が4歳クラスに母の妹が2歳シニアクラスに、そして祖母が成年級にエントリーされています。

母の妹2歳シニア1位
ルツクアウト エルムブリツジ レデイ ルージュ

母4歳クラス1位・グランドチャンピオン
エルムブリツジ ルツクアウト レデイ イン レツド

このファミリーを中心に見ておりますと、まずはジュニアチャンピオン戦、残念ながら5頭のピックアップに入れませんでした。次に母の妹レデイ ルージュのインターミディエイト戦、ここも残れませんでした。最後はグランドチャンピオン戦です。4歳クラスのレデイ インとその母成年級のラバブル レツドがピックアップされました。

グランドチャンピオンには4歳クラスのレデイ イン レツドそしてオーナブルメンションに、祖母のラバブル レツドが選ばれました。

祖母 成年級1位・オーナブルメンション
エルムブリツジ FM ラバブル レツト

〔Sale of Stars〕

セール開始は17時と案内されておりますが、17時になってもセール舞台は組み立てができておらず、帰りはタクシーですが18時と決められた最終組の出発時間を30分遅らせて見学です。

結局、セールは18時10分前に開始され左側のカーテンの間から1号牛が登場しました。写真の牛は2013オータムオポチュニテイで2歳シニア1位そして、リザーブインターミデエイトを獲得したアフターショツクの娘牛です。13万ドルまでは順調でしたが、ここでCMが左の人から入ります。何を説明しているかは、理解できませんが一生懸命話しています。セリ人（右側）は再スタートのタイミングを見計らっています。結局この牛は15万ドルでセリ落とされました。セールの平均価格は19,344ドル最高は19万5千ドルでLot 6 Cのレッドで、この牛は11月13日のゲノム評価でGPLI 3142、GTPI2584と世界でNo 1のレッドキャリアと名簿の追加分に記載されております。

カーテンの右側から退場です

11月8日

ナショナルショウは場所を移して、リコーコロシアムという普段はアイスホッケー、そして昨日はホースショウが開催されたところですが、リングサイドが無く観覧席から見下ろすしかありません。前日に2クラスの審査が行われており、3クラス目からの審査となりました。未経産はゴールドウインの娘が2クラス、またゴールドウインの息子であるアツトウツドの娘が2クラス、他にウインドブルツク、スタンリーカツプ、そしてレジナルドの娘がそれぞれ1クラスの1位となりました。

ジュニアチャンピオン（父レジナルド）

食事をとる間もなく、経産牛が始まりました。当歳泌乳クラスですが、入場と同時に目を引く牛がいます。結果的にはクラス1位となった、シドの娘コンビヘブン シド モニカでした。経産牛の最初のクラスのためか解りませんがこのショウの

中でインターミディエイトやリザーブよりも私の記憶に残る１頭になっている事は間違いありません。

コンビヘブン シド モニカ

３歳シニア１位　インターミディエイトチャンピオン
アインガース アドベント バンビ

２歳シニア１位　リザーブインターミディエイト
チヤーウイル アテイツク マーシー

４歳クラスと成牛クラスは見ごたえのあるクラスでした。４歳クラスを制したのは前月マジソンのワールド・デーリイー・エキスポ（ＷＤＥ）で２位に甘んじたロブロツク　ゴールドウイン　キヤメロン、同じＷＤＥで４歳級１位・リザーブ・シニアそしてリザーブ・グランド・チャンピオンとなった、モニークにリベンジを果たすことになりました。

１位キヤメロン　グランドチャンピオン

２位モニーク　リザーブ・グランド

審査員のCROWLYとアシスタントのDONNANがこの日の最後に４歳クラスの２頭をグランドチャンピオンとリザーブグランドに選ぶことになるとはこの時点では想像もできませんでした。

成年クラスはＷＤＥの同じクラスで１位となりシニアとグランドの両チャンピオンのマヤ　ゴールドウインがファーストピックアップの最初に呼ばれました。２番手に呼ばれたのはＷＤＥでは散々だった、リラ　ジーにゴールドウインのゴールドウイン　ライラ、ＷＤＥ３位のジエシカ　５位のブリタニーを押しのけて、２番手です。アシスタントと相談した審査員は２番手のライラを先に行くように指差した瞬間、場内に歓声が響き渡りました。

成牛クラス１位
カルブレツト ゴールドウイン ライラ

グランドチャンピオン戦を控えて

５万キロ以上のクラスには、2011年のＷＤＥとローヤルでグランド チャンピオンのミツシーが復活しました。リスター リンゼイや見学に行ったクオリテイのブリツツ フランを抑えて堂々１位です。しかしながらこの後のチャンピオン戦はピックアップされることなく、入場の時のスポットライトのみでミツシーの今シーズンのビッグショウは終了しました。

イーストサイド ルイスデール ゴールド ミツシー

チャンピオン戦前

ミツシーのクラスが終わると、ツアーの目的でもあるプレミアエキジビターのプレゼンターとして団長の寒河江氏と本部席に向かいました。

会場ではブリーダーズ牛群の審査が行われていましたが、本部席後方ではチャンピオン戦を控えたミツシーやライラが待機しており、寒河江氏と見とれていると突然我々が寄贈するプレミアエキジビターの盾を持った女性が叫んできました。今はブリーダーズ牛群の審査で、その後チャンピオン戦、そしてエキジビターの表彰と思いきや、ブリーダーズ牛群で１位となったFerm Jacobsがプレミアエキジビターも獲得したとのことで慌ててミツシーのそばから離れ、写真撮影の中に紛れ込みました。

当組合プレミアエキジビター盾贈呈　右：寒河江氏と筆者

チャンピオン戦の入場は、場内の照明が消されスポットライト１基が本部席横を照らしています。アナウンスと共にインターミディエイトチャンピオンがそのスポットライトを浴びながらリング中央に進んで行き、次にリザーブインターミディエイト、４歳クラス１位、２位と順に続いて入場し最後の５万㌔以上クラスの２位が入場して館内の明かりが点けられます。しかしながら、本部席後ろから見えるのはここまででした。リングではピックアップが始まっているようですが、その場所は遠く、加えて私の前には巨漢で一杯です。持っていたビデオを巨漢の間から回しても、写っているのは人の後頭部と忙しく動き回る本部席の人、その後ろにチラチラと牛が見えるだけです。あきらめて、雰囲気だけを味わい電光掲示板でキヤメロンがグランドチャンピオンになったことを知りました。

でも、何とか写真をと思っている私にチャンス到来の１枚です。

この後ツアーの人たちの所に戻り、寒河江氏とライラ（成牛クラス１位）やミツシーそしてキヤメロンを間近で見たと自慢したのは言うまでもないと思います。

11月９日

トロントを後にしバンクーバーへ、日本に近づいているのに時差はまた増えています。

エリザベス公園では結婚式が有り、なが～いリムジンやロールスロイスが駐車されていて、景観よりもみな車の写真を撮っていました。

バンクーバー市街、港の近くのトーテムポール等を見学後ホテルへ向かい、夜はフィギュアスケートの浅田真央がバンクーバーオリンピックの時に企画した「MAOロール」という寿司が置いてある店に行き、少しだけ時差ボケから解放されたような気になりました。

11月10日

バンクーバーから成田行きは昼過ぎの出発の為、朝ホテル近辺を散歩すると、不思議な？建物が、いくら地震がないとはいえ、太い柱に３階部分からビルが建てられています。思わず写真を撮っていると、犬を連れて散歩している人にIt's a beautiful ！と声を掛けられビルを撮っていた私は、カメラを慌てて左側の紅葉したカエデに向けて、Yeah! と答えていました。

昨年のツアーはバンクーバーからの出発が遅れ、成田での乗り継ぎが出来ず成田に宿泊したと聞いていましたが、今年は何事もなく予定通りに帰国し、成田で國行氏・添乗員の阿部氏と別れ帰道いたしました。このような機会を与えてくださいました組合および組合長に感謝いたします。　　（経済部流通担当次長　菅原）